

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300124		
法人名	株式会社あしたば		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	埼玉県東松山市高坂1091-1		
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果市町村受理日	平成29年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成29年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東武東上線高坂駅東口から徒歩10分、更に近隣に大型ショッピングモールやホームセンター、コンビニエンスストアなどがオープンし、利便性に優れている。
 日中の時間帯にスタッフを規定よりも多く配置しており、入居者さんのレベルに合わせた外出支援や通院介助を行なっている。また、庭を広く取ってウッドデッキを設置し、いつでも外気を感じることができるようになっている。食事も管理栄養士が作成した献立を提供し、栄養バランスの取れたものとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の生活パターンを尊重した支援が実施され、共に笑いあい喜びのある生活が支えられている。また食事を楽しみ、食事で健康になることにも力が入られ利用者から好評を得られている。
 ・ご家族のアンケートでも、「親身に対応してくれるので安心していられる」、「毎月の報告書を読んでいると今のような様子なのかわかり感謝しています」、「自然な感じでお声掛けしてくれ、良い事悪い事も正直に話していただけている」などのコメントが寄せられ、ご家族との信頼関係の深さが伺える。
 ・目標達成計画の達成状況は、定期的な避難訓練が実施されており、マニュアルの見直しもされていること、運営推進会議が計画的に実施されていることなどから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議で『自らがケアに携わる上で大切にしていること』を挙げてもらい、それを集約して理念としている。また、常に忘れず実践に繋げるために、毎朝唱和を行なっている。	事業所の理念が職員全体の行動指針として日々の生活の場で実践され、その結果として常に笑顔で接することや利用者の気持ちを優先した介護の提供に繋がりが活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム全体の大きな行事に参加いただいたり、散歩の際に挨拶や世間話などをして交流を図っている。	近隣におたよりを配布するなどのアプローチが図られ、地域住民が行事に参加してくれたり、野菜や物品の寄付、芝刈りをしていただくことなどの協力を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の拠り所となるよう、あしたばだよりを作成し配布したり、ホーム内にてワークショップを開催したり、認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ごとにホームの運営状況や取り組んでいること、今後の活動予定などを報告し、参加者には今後活かすため、気兼ねなく意見してもらっている。	規定にそった年6回の開催が守られており、定期的に参加者からの意見を取り入れられる環境がつけられている。地域や家族、地域包括支援センター等の参加協力が得られ、幅広く事業所の取り組みを知ってもらうことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空床情報や入居問い合わせなどを含め、担当者とは密に連絡を取っている。	日頃からの相談や働きかけにより、市担当者との相互関係は良好なものとなっており入居の受け入れ相談も行われている。また、空室状況の連絡をするなど情報の共有がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが正しく理解し、実践している。しかし、玄関に関しては昨今の事件等、防犯の関係から自動ドアの暗証キーロックとなっている。	現状では身体拘束の対象となる事例はないが、日頃からミーティングのなかで話し合いを持つ機会をつくり、どうしたら身体拘束をしないケアを継続できるかが話し合われている。	身体拘束をしないことが前提としての介護が定着しているが、さらに職員間の考える力や判断する力を育てていくために継続的に研修されることに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など全身観察が可能な状態の際に必ずチェックを行ない、見過ごすことのないよう努めている。外傷等みられた場合には、原因究明を行い、再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で、その機会を確保しているが実際には活用しての支援体制は構築できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時に説明を行ない、その場で疑問点を解消できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。また、面会時や電話でのやり取りの際などに、ご意見やご要望を確認している。	定期的な運営推進会議の場や行事の際に意見を聴き取る機会を設けたり、利用者とゆっくり会話をする時間を意識的につくるなど工夫がされている。意見を取り入れて職員の名札を検討するなど運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでその機会を設けている。また、随時、意見を吸い上げ反映することのできるよう、ユニットにリーダーを配置している。	普段から疑問点や相談を伝えやすい環境となっており、役職者との隔たりがないため日頃から細やかなコミュニケーションが図られている。そのため運営に関しての提案が、スムーズに業務に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決算賞与などの際に努力や実績、勤務態度などを考慮し反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協議会や市内GH合同研修などに参加してもらい、レベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会や市内GH合同研修などに参加してもらい、交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で、現状困っていることを把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査で、現状困っていることを把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査で、現状困っていることを把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力に合わせて出来ることを一緒に行ない、ともに生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が快適に生活できるように、ご家族に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れることのないよう、面会やホームの行事などに参加していただいたり、手紙の投函をサポートするなど関係性の維持に努めている。	生活歴や好みなどの情報収集によって、利用者が望んでいる関係継続を把握できるように努力されている。その結果、なじみの店に行くこと、自宅を訪ねること、葬儀に参列すること、家族旅行に行くことなどが支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の性格や相性などの関係性を考慮し、共に支え合えることのできるよう、食事の席や外出時のメンバーを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話連絡や退所後訪問などを行ない、フォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人を中心に考えて希望や意向に添えるよう努めている。	利用者ごとの生活背景に配慮され、おしゃれを楽しむこと、甘いものが好きなことなど、個別性を重視して本人本位の生活が検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査やサマリーなどを通し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録やスタッフ間の申し送りを通して、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで具体的な課題とそれを解決する為のケア内容を話し合い、基本対応表に反映している。	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に把握された情報をもとに定期的な話し合いの場が設けられている。カンファレンスでは利用者ごとの対応が検討され、介護方法の工夫が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違うことは特に注意して介護記録に残し、課題解決に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居中でも様々なサービスが利用できないか問い合わせや検討を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会に参加したり、少年野球団を見学に行くなど、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と信頼関係を築き、通院時以外でも電話連絡で指示をもらえる体制を整えている。	利用者の健康状態や疾病に応じて、適切なかかりつけ医を選択できるように情報提供がされている。受診時には普段の状態を適切に伝えられるように支援され、家族との情報共有にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に日々の医療的な疑問点やご本人の状態を把握し、適切に診療していただけるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	具体的な退院日の日程調整をしたり、お見舞い時に状態の把握ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年齢や身体状態などから、重度化が予想される入居者さんについては、ご家族と早い段階から話し合いの機会を設け希望をお伺いするとともに、ホームで対応可能なことを伝えるようにしている。	今年度は終末期ケアに取り組み、利用者への支援方法、家族との協力体制、医療との連携、職員のメンタルケアなど情報を共有しながら実践されている。事例を通して学んだ経験を今後活かしていくために感想を話し合い、課題を確認することなどがおこなわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等が可能なように、消防署開催の初級救命救急講習を、ほぼ全てのスタッフが受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡方法の掲示はもちろん、定期的な避難訓練を実施している。	避難訓練では、各自の役割を確認し迅速な行動ができるように訓練をされている。地域の防災訓練に参加できるように運営推進会議で地域の参加者に呼びかけるなどの働きかけが行われている。	災害は予測不可能なことで、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域住民の協力者の確保と地域の防災訓練への参加等に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活暦を把握し、その人に合った声かけを行なっている。	排泄、入浴時等の声かけや介助方法に関して日頃から人格や誇りに配慮された基本姿勢で臨まれている。統一した意識や基準での支援ができるように利用者ごとの対応方法の確認がおこなわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めつけてしまうのではなく、ご本人が最終決定できるような声かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを崩すことのないよう、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅や化粧品を一緒に買いに外出したり、普段から整髪・整容を意識して行なっている。また、衣服に関しても、本人に合ったコーディネートを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせて包丁を持った調理からテーブル拭きまで、一緒に行なっている。	いつまでも口から食べられること、家庭的な献立であること、匂いや音などで空腹を感じることなど美味しく食べられるように細かな工夫がされている。また個人の嗜好に合わせた外食や出前の対応も配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士(代表者)の献立で、摂取量や水分量はその都度、記録することで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず洗面所や食事席などその方の状態で出来る場所で口腔ケアにあたっている。また、月一回の歯科往診を利用し、口腔衛生と清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間やパターンの把握に努め、快適に排泄していただけるようケアにあたっている。また、オムツやリハビリパンツなど、ご本人の現状に沿っているかを定期的に見直している。	利用者にとって、どのような働きかけや援助が自立支援に繋がるのかが検討され実施されている。立位が困難な方でもトイレに座ってもらうことで排便がスムーズになるため利用者の快適さが重視された支援方法となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な散歩や水分量の把握、食物繊維を多く含む食物の摂取や玄米ご飯の提供、内服薬の副作用の理解に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、好きな時間やタイミングで入浴していただけるように努めている。	利用者それぞれにあった入浴の方法や注意点は職員間で話し合われ共有されている。気持ち良く入浴できるように同性介助の希望や個人のこだわりの入浴手順など意向が把握されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整やその日の体調・気候を見極め、休息・就寝できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される薬内容シートを記録に綴じ、副作用や効能について理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の能力に合わせた外出援助などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気を感じていただけるよう散歩の支援を行っている。時間を決めることなく、ご本人の行きたい時間に合わせて支援している。	季節の移り変わりを感じ、気分転換が図れるように外出が企画されている。毎朝のウォーキングの習慣がある方や、家族の協力を得て外出する方、自宅の様子を見に行きたい方など一人ひとりの希望も考慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、所持することで精神的満足感を味わっていただくための支援を数名に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの電話や手紙のやり取りはないが、こちらから声をかけ手紙を書いていたいたり、ご家族からの電話に出ていたいたりしている。また、ご希望者には携帯電話を所持していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にネームプレートを貼ったり室温をこまめに調整して快適に過ごしていただけるよう努めている。	清潔感が感じられる共用空間が意識され、利用者の目線でくつろげる場所であるように、家庭的な雰囲気大切にされている。またアロマテラピーが実施され昼夜で異なった効能の香りが使い分けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に数人掛けや一人掛けのソファなどを置き、思い思いに過ごしていただける空間作りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で、馴染みの物を持ってきていただき、ご本人のお部屋に近づける努力をしている。	利用者それぞれが大切にしている物や家具を持ち込んでもらい、自分らしい落ち着ける居室となっている。また自分の作品や思い出の写真を飾るなど好みを反映できるように本人や家族と相談しながら支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやわかることを最大限活かせるように、掲示などを行なっている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:グループホーム明日葉

作成日:平成 29年 5月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束に該当する事例がないことで、身体拘束に関する意識や研修の機会が薄れている。	「該当事例がないから」ではなく、常に身体拘束に対する意識・感心を持ち、今後も身体拘束が起こらないようにする。	社内研修を定期的に行い、当事者意識を持ち続けるようにする。また、社外研修にも参加する機会を作り、最新の考え方や取り組みをチーム全員で共有する。	12ヶ月
2	35	地域の一員として、地域ぐるみでの災害対策が不十分である。	地域の一員として、災害対策に関わることができるようにする。	地域行事等に積極的に参加し、地域との信頼関係をより強いものとする。区長・民生委員などの協力を得ながら、合同の避難訓練を実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。